

20th Anniversary Onjukudai

御宿台

題字／山本義男

区制20周年特集

御宿台区自治会運営委員会編集・令和3年1月1日発行



記念すべき第1号(2000年夏号)から70号(2020年秋号)までの御宿台区ニュース

2020年、御宿台は区制施行20周年を迎えました。これを記念して運営委員会では会報誌の別冊として特集号を作りました。これをご覧になり御宿台の20年の歩みを振り返っていただければ幸いです。

(20周年特集編集委員:今村雅一 寺島正博 阿部繁 中野明 福田延隆)

1P 表紙 2~3P 年表 4~5P 航空写真等 6P 御宿台はじまり物語 7P 人口推移 8~11P 区制20周年に寄せて 12P 平司洞門の民話

平成 2年
「建築中のラビドル御宿」



平成 13年
「ふれあいフェスティバル」

平成 14年「集会所 工事」



平成 16年「初の防災訓練」

御宿台のあゆみ

御宿台の主な出来事

- 1971年 昭和46年 千葉県夷隅地区開発事業開始
- 1984年 昭和59年7月 御宿台造成工事開始
- 1988年 昭和63年7月 御宿台第1期販売開始
- 1990年 平成2年10月 ラビドル御宿入居開始
- 1992年 平成4年9月 消防署開署
- 1995年 平成7年5月 御宿台造成工事完了・集会所完成
- 1996年 平成8年6月 朝市開始・シャトルバス運行開始
- 1998年 平成10年11月 緑の環境づくり協議会発足
- 1999年 平成11年7月 御宿台環境対策協議会発足
- 2000年 平成12年3月 御宿台区制スタート
- 2001年 平成13年8月 第1回ふれあいフェスティバル・御宿台開催
- 2002年 平成14年5月 集会所増改築、コミュニティセンターに
中央公園広場がドクターヘリの離発着場に
- 2003年 平成15年2月 中央公園に河津桜を植樹
- 2004年 平成16年1月 御宿台歯科クリニック開業
- 2005年 平成17年7月 御宿台の防災を考える懇親会開催
- 2006年 平成18年8月 御宿台区自主防災会発足
- 2007年 平成19年7月 台風4号による土砂災害発生

主な出来事

- 郵政民営化スタート
- 秋篠宮悠仁殿下ご誕生
- 愛知万博開催
- 新潟県中越地震発生
- 地デジ放送開始
- 日韓ワールドカップ開催
- 愛子内親王殿下ご誕生、アメリカ同時多発テロ発生
- 高橋尚子シドニー五輪マラソン金メダル
- 石原慎太郎 東京都知事誕生
- 明石海峡大橋開通
- 阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件
- 岩崎恭子 バルセロナ五輪金メダル
- 平成天皇即位の礼、東西ドイツ統一
- 青函トンネル開業、瀬戸大橋開通
- 東北・上越新幹線上野駅開業、つくば万博開催
- マクドナルド銀座1号店開店

写真で見る御宿台の今と昔





平成 18 年「御宿台の雪景色」



平成 25 年「絆音頭の輪」

平成 23 年「区制10周年」



令和元年「ふれあいの家 OPEN」

2008年

8月 第1回サークル代表者会議開催

2010年

平成 20 年 4 月 ブロック長・班長体制スタート

2011年

12月 地デジ放送配信開始

2012年

平成 22 年 10 月 区制施行 10 周年記念行事開催
平成 23 年 10 月 第1回秋祭り開催

2013年

7月 拡大朝市開催

2014年

10月 指定ごみ袋制開始
平成 24 年 3 月 漁港坂整備完成
平成 25 年 1 月 防災スピーカー3台設置
平成 26 年 3 月 第1回拡大朝市・さくら祭り開催

2015年

10月 エビアミー号運行開始

2017年

10月 西武営業所前交差点に防犯カメラ設置
10月 西武営業所前交差点に信号機設置

2019年

8月 第1回御宿台寄席開催

2020年

11月 交流サロン「ふれあいの家」オープン

令和 2 年 3 月 御宿台区制 20 周年
町有地法面樹木伐採事業開始

東北新幹線全線開業
リーマン・ショック

東日本大震災
東京スカイツリー開業

御嶽山噴火、香港民主化デモ
東京五輪決定

北陸新幹線開業

トランプ米大統領就任

中国・武漢から新型コロナウイルス世界中に蔓延
ノートルダム大聖堂・沖縄首里城火災
令和スタート



空から御宿台を見てみよう



① 町から御宿台への道

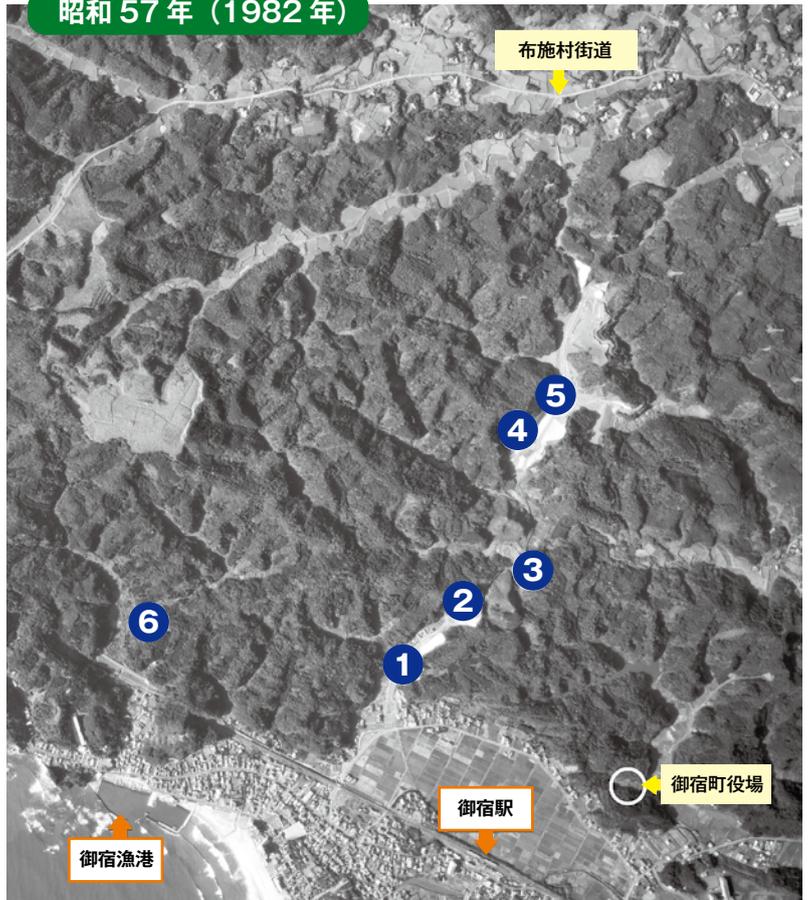
平司洞門を通り実谷、布施村街道へ抜ける道
右が旧道跡、左が新道



② 平司洞門記念碑

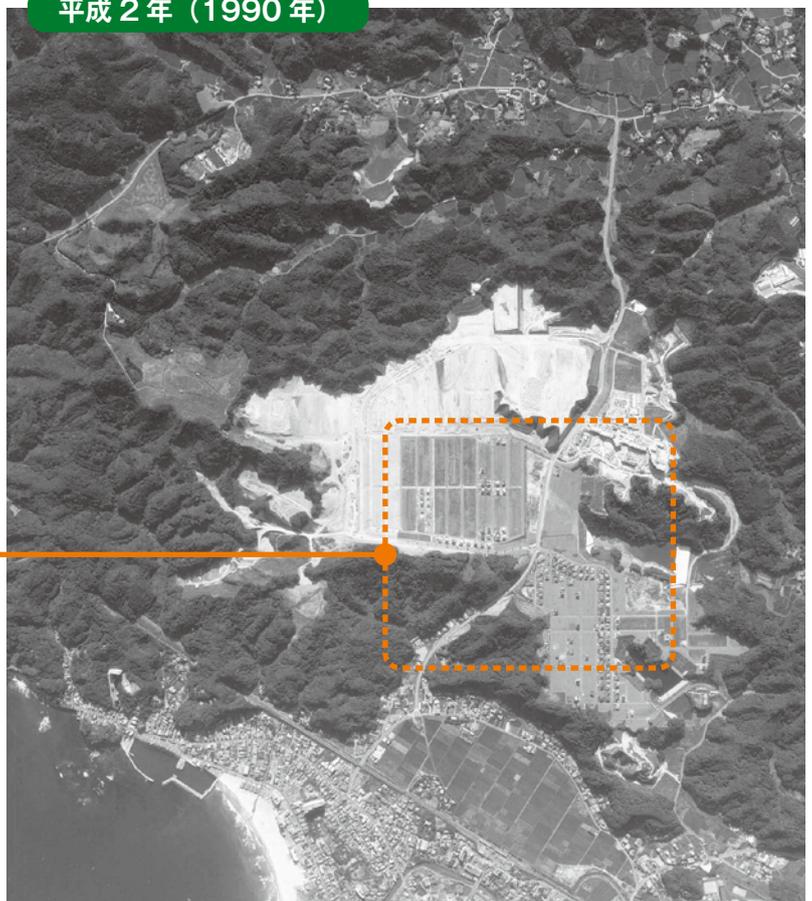
開発前には延長 65m、幅 3mの「平司洞門」があった。開削者の神定平司の労苦と業績を讃え記念碑が建立された。
この碑は、県が選定する次世代に残したいと思う「ちば文化資産候補」になっている。御宿町では日西墨三国交通発祥記念之碑（メキシコ記念塔）が選定されている。

昭和 57 年（1982 年）



国土地理院空中写真 KT-82-6X-C13-10

平成 2 年（1990 年）



国土地理院空中写真 KT-90-1X-C524

平成 2 年の拡大写真



100 番台の道路沿いと 200 番台の一部に家が建築されている。中央公園はまだ整備されていない。

— いま と むかし —

平成 24 年 (2012 年)



国土地理院空中写真 CKT20152-X-C2-4



③ 西武営業所

④ 消防署

⑤ 隧道跡

開発前には隧道があり、昭和 56 年以前の地図には記載されている。

(平司洞門より長く 80m 位と推定される)

57 年の空中写真では隧道が開削されている。



⑥ 漁港坂

御宿台から御宿漁港への近道。
道幅が狭く急坂なため要注意。

平成 29 年 (2017 年) 9 月撮影



御宿台はじまり物語

西武プロパティーズ、平賀所長に伺いました。

Q この一帯は開発前、人家の無い木の生い茂るだけの山だったようですが、この地区が分譲地として開発されるに至った経緯を聞かせて下さい。

A 1971年（昭和46年）に千葉県企業庁による房総地域振興の方策として「千葉県夷隅地区開発事業」が立ち上がりました。1973年（昭和48年）には西武不動産も加わり、官民共同開発方式による県下でも有数規模の開発事業として、大原台とともに御宿台の開発もスタートしました。本事業における、地域の特性を生かした総合的な観光レクリエーション施設と定住型分譲地建設は、地域振興の有力な方策として当時においても広く注目を集めていました。

両分譲地における実質的な事業内容は、千葉県企業庁が用地の取得と基盤整備を行い、西武不動産が施設の建設、整備、分譲、運営、管理を担当するというものです。

この事業の目指すところは、豊かな自然環境と都市機能を調和させ、そこに住む人々のための新しいライフスタイル・生活空間を整備・提供しようとするものです。

この開発事業に遅れること約15年、1987年（昭和62年）6月に総合保養地域整備法（通称リゾート法）が施行、千葉県でも房総リゾート地域整備構想が推進されました。これらは共に生活の「質」「ゆとり」「生きがい」を掲げており、大原台、御宿台の開発はこのような時代のニーズを先取りして事業展開していたわけです。

大原台は214.3haの広大な土地に、ゴルフ場と約940区画の分譲地を造成し、1988年（昭和63年）に分譲を終了しました。また御宿台は167.6haの広大な土地に約1500区画を造成し、南国情緒あふれる街に、大型公園、テニスコート、パークゴルフ場などのレクリエーション施設が設置されています。販売開始から約30年が経過し、御宿台はますます成熟度を増しています。



広報「御宿」昭和49年5月号P7より

Q 御宿台の造成が開始されたのはいつからですか。

A 1984年（昭和59年）7月に造成工事が開始されました。



広報「御宿」昭和63年12月号P5より

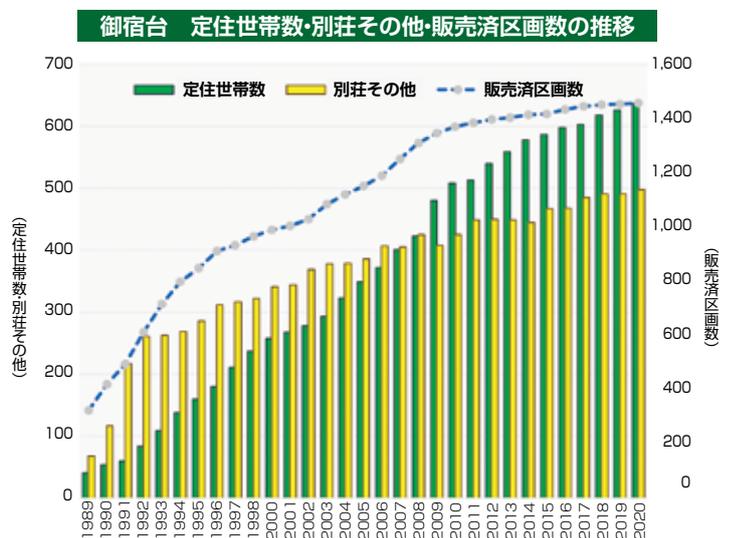
Q 第一期の分譲開始は、いつどの地区からでしたか。またその時の反響なども教えてください。またその後の分譲はどのような順序でしたか。

A 第一期の販売開始は1988年（昭和63年）7月です。100街区の土地154区画、建売住宅16棟が抽選方式で販売開始されました。当時はバブル期でもあり、最大抽選倍率は120倍で多くのお客様の来場がありました。

その後の販売は、造成工事の進行に合わせ、200、300、400街区の順に販売をしています。

Q 最近では新しい家も随分増えました。販売開始以来、販売済み区画数、総戸数、定住世帯数等を教えてください。

A 西武プロパティーズでの集計は以下のグラフのとおりです。

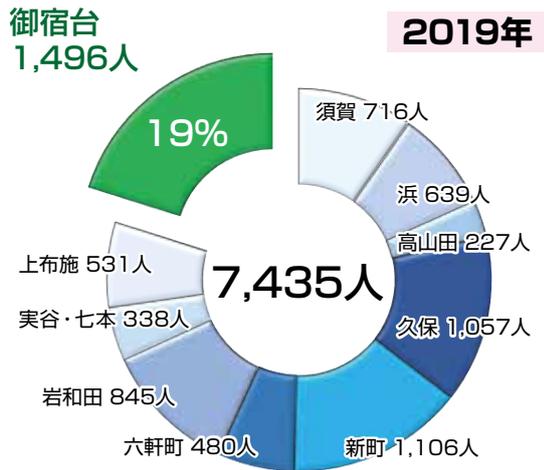
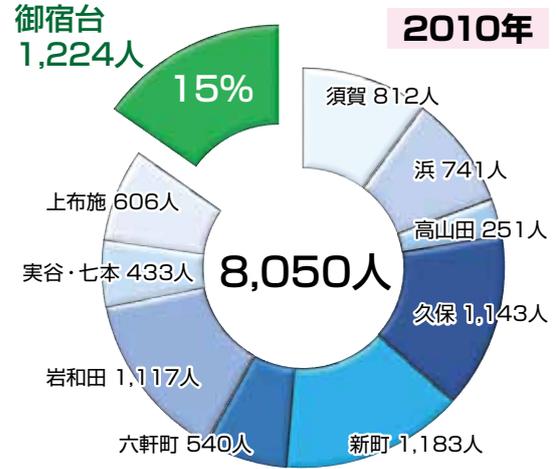
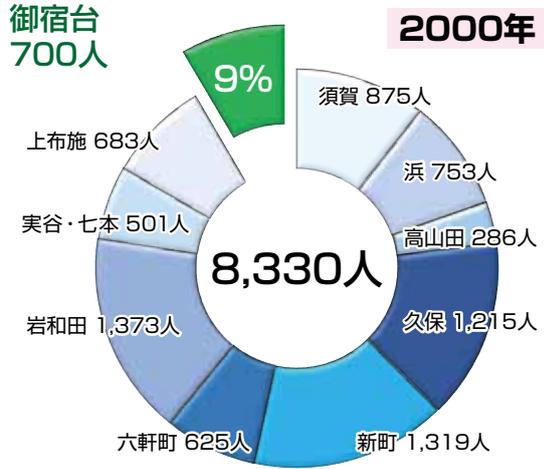




御宿町・御宿台区の人口推移



広報「御宿」町勢号より



御宿町全体の人口はこの20年で減り続けていますが、御宿台の人口は増え続けており、今や御宿町の2割、全10区の中の最大の人口です。



区制 20 周年に寄せて

今昔の感



御宿台区自治会
初代自治会長
唯山 利朗
(122-12)

長くもあり又短くも感じる20年ではありました。この地に居を構えてより25年の月日が過ぎ去ろうとしており、改めて日々の暮らしを思い返しております。

当初は親睦会として発足致し、その後、発展的に自治会となったと記憶しています。

先ず第一は『御宿台としての意識の確立』であります。当時は「御宿台など御宿ではないっべ！」などと心ない言葉を投げかけられたこともありましたが、今では御宿町一番の大きな区になり、ここ御宿の特性を保ちつつこの地域の一員として存在出来ていることです。

まだ建設中の新興住宅地を目指し、定年後に、又別荘にとニュータウンへの志は夢に溢れるものでありました。就中親睦会の面々も集会所に於ける話し合いとなると誠に血気盛んな青年のごと火花を散らし逸る場面も多々あり、又定住者が増えて参り御宿台区に発展し他区との合流区長会等での酒宴の触れ合いも今となっては思い出の一ページ。それもこれもこの地を愛し良き住み処としての発展を願うものでありました。それらの諸先輩達の先駆けを思わずにはられません。

第二には『現在の御宿台区としての積極性の確立』現在の自治会活動が大変積極的であること。魅力あるアクティブな活動を行い得ていること。バトンタッチがなされたのだと感謝の思いです。

コロナ禍の中、感染者ゼロの我が町は海、山、月、星、自然の懐に心洗われ和みの町『おんやど』の名の通りです。区制20周年を祝し一層の発展を願うものです。

この町の宝、健やかな子供たちの姿に励まされ、人生百年時代へと八十路を生きております。

御宿台区創設期前後の思い出



初代運営委員
矢作 舜二
(238-12)

今年で御宿台区になって20周年、大変感慨深いです。この時期の私にとっての最優先事項は自宅の庭を造ること、及び区運営委員会（含親睦会の牛牧場関係）を引き受けたこと、一方で写真愛好会に入会し、御宿町に『童謡を歌う会』設立のお手伝いもしたりと非常に充実した忙しい日々を過ごしていました。しかし、最優先であった塀工事・駐車場工事・庭造りは作業時間が中々取れず1年10か月位も掛かりようやく完成しました。

その庭造りの最中、親睦会の鈴木正也会長と知り合いになり、御宿台で一番の問題であった牛牧場の悪臭を解決するため、平成11年7月10日に牧場問題対策委員会を設置、その委員を引き受けました。町農水課・委員会メンバー・西武・ラビドールとの打合わせが多く、また、当該牧場（村石養鶏場他）及び糞尿対策先進牧場の見学調査など精力的に動きました。この活動は平成12年1月18日に村石養鶏場と合意書を取り交わし終結しました。

その合意内容は牧場増設計画の縮小、及び開放型堆肥化施設を密閉型に改良し脱臭槽を設置すること等でした。また、町より御宿台に行政区設置の要請があり、平成12年3月11日の住民会議にて御宿台区として設置が受け入れられました。御宿台区規則も制定され、区運営委員会も設置されました。その時の運営委員は6名で、行政区をスムーズに運営し悪臭・治安などの問題を解決するため、運営委員会議、町・西武などとの打合わせが連日続きました。悪臭問題はその後も度々発生し、また、治安問題では空き巣に相当数やられました。村石養鶏場との話し合いや御宿台区内の防犯パトロール強化等で現在は随分と住み易くなったと思います。



御宿台区創成期から続くサークルのあゆみ

御宿台ゴルフ倶楽部の思い出



ゴルフ倶楽部

西浦良一

(232-9)

私は平成19年の秋、横浜からこの御宿台に移住して来て最初に「歩こう会」に入会したのが事の始まりで、最初に参加したのが確か銚子の醤油工場見学バスツアーでした。そのバスで隣の席にいらしたのが当時ゴルフクラブの幹事をなさっていた岩澤さん(331-09)で色々と御宿台暮らしのノウハウをご指導頂いている中でゴルフクラブの話があり、私も嫌いではないので喜んでその場で入会申込をしました。初めての参加が大多喜カントリークラブ(当時)で、岩澤さんに送り迎えをして頂き大変恐縮した事を思い出します。その当時のクラブの会長が紙谷さん(319-07)で、高齢にも拘らずゴルフが大変お上手で驚いたものです。



このクラブの特徴は、幾つかのゴルフ場を順番に回り目先を変える楽しみがあり、会員は御宿台の住民に限定、逆に御宿台の住民であれば(別荘利用者含め)誰でも入会できる事、ご夫婦の会員が多い事等大変アットホームなクラブです。それから2年後今度は私がクラブ幹事役に選ばれ益々クラブにのめり込む事になりました。早速取り組んだのが新規会員の募集でした。幸いなことに当時は御宿台に移住又は別荘暮らしの方々が増加しており、会員の入会申入れが次々とありお蔭で会員総数が60名超えることがあり、当時はコンペ組数が12組を超えることがあり大変賑やかなクラブに発展しました。特に12月のコンペ後は忘年会を兼ねて年間成績発表や抽選会(コンペを開催した各ゴルフ場から無償で提供された豪華な賞品が当たる)を開催し飲みや唄えの大宴会で盛り上がったものです。

それから10年さすがにメンバーも年を取り段々と参加者が減り限られた顔ぶれでコンペを開催している状況です。

しかし現幹事役の平山さん(248-7)や前幹事役の山田さん等の努力によって会員の増加に成果が出始めております。より安く、より楽しくをモットーに取り組んでいます。ゴルフだけでなく色々の情報交換や趣味の話で盛り上がることもあり、興味のある方は気軽に幹事までお声掛けください。

「青空の下芝生の上で白球を思い切り打ってみませんか！」

御宿台囲碁倶楽部の歩み



囲碁倶楽部

平山一夫

(242-5)

私は御宿台に移住し、囲碁倶楽部に入会して11年半が経過しました。5年程前から会長をさせて頂いています。入会した当時の倶楽部は非常に活発で、小会議室だけでは入り切らず、廊下に碁盤を出して対戦していたような事もありました。

囲碁倶楽部は自治会創成期(1996年頃)から活動を始めたサークルの一つのようですが、昔を知っている会員は矢作さん、清水さんだけになってしまいました。

矢作さんから1996年(平成8年)の自治会報に載った初代会長の岡田正春さんのクラブ紹介の記事を頂きましたので、当時の状況を若干掲載させていただきます。

「親睦会の発足と共に、囲碁クラブも出来ました。会員数は22名で、そのうち8~10名が午前9時頃から昼過ぎまで、囲碁を楽しんでいます。“たかが碁、されど碁”とか言いますが、頭の体操に良い趣味と思います。」

清水さんによれば、「まったく新しい土地に来て、クラブを通じて友達が出来た。町の方もクラブに参加していたので、地元の方にも色々お世話になった。また、昔は「サンライズ九十九里」などにクラブで1泊旅行した事が懐かしい思い出。」との事です。

会員数は現在も20数名ですが、いつまでたっても私より若い方の入会がほとんど無いのが悩みの種です。是非皆さんの参加をお待ちしています。

「御宿台フォークダンスクラブ タートル会」の歩み



フォークダンスクラブ
タートル会
藤田 育子
(223-14)

御宿台区制20周年おめでとうございます。

当タートル会は以前から御宿町で活動されていた「御宿町フォークダンス愛好会」の楽しい踊りを御宿台でも！という多くの方々の思いで1996年に愛好会の佐藤先生を指導者としてお迎えし活動を開始しました。早いもので来年25周年を迎えることとなります。

発足当時、集会所は今より小さく、思い切った練習がしにくかったようですが、会としての形態も次第に整い、広くなった集会所で先生のご指導のもと月3回、金曜日午前中に練習を楽しんでいます。その後活動範囲も徐々に広がり、今では年に一度の千葉県フォークダンス連盟主催の「春のフォークダンス祭り」や「御宿台秋祭り」、「御宿町文化祭」、また関東甲信静越のフォークダンス愛好者800名との親睦と交流を深める「ジャンボリー」等にも参加するまでになりました。

フォークダンスはヨーロッパから伝わったもので若者から年配者まで誰でも気軽に、そして楽しく踊れるため心身の健康増進に役立つと言われております。欧州では女性と共に多くの男性がダンスを楽しんでいます。

ところが残念なことに今年はコロナ禍で練習ができないことになりました。接触することなく踊れる曲目選び、人数制限、フェイスシールド着用など安全に踊れる方法



を模索すると同時に、各自が家の中で個人練習出来るようにCDの配布などをしてきました。

コロナ終息の暁には全員がまた笑顔で集まり、そしてこれからは女性だけでなく男性にも沢山参加していただいてフォークダンスの楽しみの輪を拡げていきたいと願っています。



「御宿台テニスクラブ創部 23年に」



テニスクラブ
小林 里子
(319-10)

自治会の前身である親睦会が今から23年前に発足し、サークル活動の一つとして、テニス経験豊かな方々がクラブを立ち上げ、未経験の私でしたが思い切って入部しました。

当時、転居して2年目、週2回のテニスを通して素敵な仲間と出会い、御宿の生活がより楽しくなりました。

この間には部員数が極端に減少したり、コート傷みがひどくなったり等々、一時は存続の危機もありました。

現在は50名を超す大所帯になり、コートも人工芝に変身。皆思い切りテニスを楽しみ、人生経験豊富な方ばかりでとても素晴らしいクラブになりました。

私にとって御宿台テニスクラブは心のオアシスであり、宝物です。

長老になり皆さんに助けられていますが、これからも一日も長く、楽しくテニスができればと思っています。



「御宿台歩こう会」の 25年を振り返って



歩こう会

苗村善健

(123-14)

御宿台歩こう会(略称 歩こう会)は、現在発足から25年目を迎えております。

この25年間に、多くの方が入退会されておられます。今回は、およそ10年毎に顔ぶれがどのように変わったかを、記念写真でご紹介致します。



記念写真1

初ウォーキング「1996(平成8)年3月11日 メキシコ記念公園」

発足時の初ウォーキング「1996(平成8)年3月:記念写真1」では、23名の方が参加されておられますが、25年後の現在ではすべての方が退会されておられます。

何と云っても、会員の方々にとって、毎火曜日のウォーキングはさることながら、主な楽しみは“ランチ納会”および“バスハイク”です。ランチ納会で、これまで参加者が最も多かったのは、発足から13年後の開催「2007(平成19)年:記念写真2」時の36名です。



記念写真2

第11回ランチ納会「2007(平成19)年12月1日 太陽の里」

楽しみの宴会は、約2時間のウォーキング後、温泉で汗を流したあと始まります。カラオケでは、伴奏を気にせず抑揚の少ないリズムのマイペースのソロシンガー、相手に恵まれず男性同志でのデュエット一途の人など。ざわついていた会場が急にシーンとなれば、いよいよプロ級歌手の登場。この時だけ皆舞台にくぎづけ、拍手喝采。そのあとはゲームで最後の盛り上がり、記念撮影、三本締めで今年も終わり。



記念写真3

バスハイク「2017(平成29)年6月13日
香取神宮・潮来あやめ祭り・愛友酒造」

バスハイクでは、発足から22年目の行事「2017(平成29)年6月:記念写真3」に、最も多い37名が参加しています。主な行先は、「由緒ある神社仏閣地」・「花の名所」・「地方の有名特産品販売所」です。計画時に一番悩むのは花の満開時期です。現地観光案内所に確認したり、関連資料を調べたりして「今年は満開間違いなし!」と、当日を迎えるのですが、最盛期に早過ぎたり遅すぎたりが多く、自然のワガママを恨めしく感じます。

このように、二昔ともなれば全ての方が退会され、一昔では多くの方が現役で元気に歩いておられます。歩こう会はいつまでも続きます。10年後も多くの方が元気にウォーキングなどに参加されておられるでしょう。人生100年の時代ですから!



4ページの写真 ②で説明した平司洞門にまつわる童話風のお話です

平司洞門（へいじどうもん）

『須賀』地区は、後ろが山で、前は海岸です。海岸の方は平坦な土地で農作業も容易にできましたが、山の方は谷が多く不便と困難をとまなっていました。

この話は、むかしむかし、と言っても今からおおよそ七十年ほど前の須賀の話です。

一
少しでも多くの米の収穫を願って、山と山のわずかな平地も開墾されて田が作られました。

田は水が命です。雨の多い年はいいのですが、少ない年は日照りになって谷間の田は枯れてしまいました。こんな状況を見続けてきた神定平司は、水路を作って山の溜池から水を引くことを考えていました。連なる山をくりぬき、田まで水路を作るのです。平司はこの考えを周りの人々に説いてまわりました。

「谷あいの田んぼまで水を引けば、雨の少ない年も稲は枯れません。毎年豊かに稲が実ります。みんなが水路を作りましょう。みんなが力を合 わせれば、簡単なことです」

水路のできることはだれもが望んでいましたが、山を掘り水路を作ろうという者はいませんでした。しかたなく一人で山を掘る決心をしました。溜池から谷あいの田までの地形を調べ、地図に水路をかきました。そうして翌日から、クワとツルハシ、モッコを持って山に出かけました。雨の日も風の日も続けました。こんな平司を見て

「あんやろうは、かわったやろうだ……」

「いつになったらできるやら、頭がおかしくなっ たのでは……」

と、ちよう笑し、変り者あつかいする人もいました。しかし、平司は必ず成功すると、一人黙々と掘り続けました。

二
そうしてついに半年を費やして、二〇メートルの地下水道をつくりあげました。それ以来、谷間の田は日照りの年も枯れることなく、秋になると稲穂はたわわになるほどたくさん実をつけました。

また、浜から山間部の実谷地区に行くには、峠を越えなければならず不便をしいられていました。農作物を運ぶのも、木材を運ぶのにも人の背を頼り、この峠を越えなければなりません。この峠の下にトンネルができたなら、楽に荷を運ぶことができます。時間もずつと短くてすみます。平司は山を掘りぬいてトンネルを作ろうと考えました。

しかし、今度の仕事は人や馬が通れるようなトンネル作りです。半年や一年で終わる仕事ではありません。それを思うと、なかなか実行に移せませんでした。焦るのですが、年月だけが空しく過ぎていきます。周りの人達に相談しましたが、

「山をくりぬくのだぞ、それもあのようにな大きな山を」

「水路のようなわけにはいかねえぞ」

と、またまた反対されました。周りのみんなを頼っていたのではだめだ、とにかく掘ってみよう、と昭和六年、山の岩壁に挑みました。一人で黙々と掘り続けました。その姿はさながら江戸時代の

禅海上人の『青の洞門』を連想させました。これを見た当時の町長さんは

「これほどまでに執念を燃やしているのか。町民のことをこんなにも考えてくれるのか」と、感動しました。そこで、陸軍の工兵隊に応援を求めました。

そうして、ついに昭和九年、三年五か月の月日を費やして完成しました。このトンネルのおかげで、山と海との交流が容易になりました。人々は長くこのトンネルを『平司洞門』と呼び、感謝しました。

しかし、夷隅開発建設事業の造成工事のために「平司洞門」は姿を消してしまいました。かわりに平司の業績を後世に伝えるため、洞門の跡に碑が建てられています。

おしまい



御宿町平成二十七年九月一日発行

「御宿ふるさと民話」より転載

編集者 齊藤 弥四郎氏